

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

中央中学校区	校番 1	福山市東小学校
最終更新日	2019年(令和元年)11月1日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○児童生徒実態に基づくマネジメントサイクル ○課題発見解決型の授業改善 ○学力向上への指導工夫改善 ○共感的人間関係の構築、自己肯定感の高揚 ○開かれた学校とわかりやすい発信</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○子ども主体の学びづくりの中で、主体性が育ちつつある。 ○小中共通の取組で、中学校生活に円滑に移行できている。 ●不登校傾向にある児童生徒数の割合が高い。 ●家庭での学習習慣をより主体的にする必要がある。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>スキル・・・ A【課題発見・解決力】 B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・ C【協調性】 D【思いやり】</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している</p> <p>中学校区として統一した取組等</p> <p>1 校区合同で実施する授業研究 2 児童会、生徒会による「いじめSTOP集会」や「あいさつ運動」の実施</p>
---	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>すすんで学び、自ら伸びようとする子どもの育成 ～知・徳・体のバランスのとれた教育をめざして～</p>
<p>学校教育目標</p> <p>主体的に学び 仲間とともにたくましく生きる力を育む。</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒> ○学習規律や家庭学習の習慣は定着し、心情面も安定している児童が多い。 ●決められたことや指示されたことはきちんとできるが、友達と活発な論議をしたり、創造的な発想をしたりすることができにくい。 ●地域事情により絶対的な運動量が不足しがちで、体力がつきにくい。</p> <p><授業> ○おおむね落ち着いた状況の中で、授業が展開している。 ●児童が自ら課題を発見し、かかわり合いの中で解決するような、学習者主体のものに改善する必要がある。</p> <p><その他> ●定時退校への意識を高め、時間外勤務を削減する必要がある。</p>

<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>スキル・・・ A【課題発見・解決力】 B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・ D【思いやり】</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>低学年 A 自分で決めたことを最後までやり通すことができる B お互いの考えを聴き合い、思いを伝え合うことができる D 相手の立場に立って、友だちの気持ちを考えることができる</p> <p>中学年 A 日々の学習や生活の中で課題を見つけ、解決しようと努力することができる B 他者の考えを聴き、さまざまな気づきを持ち、自分の考えと比べながら表現できる D 友だちの気持ちや周囲の思いを考えた言動ができる</p> <p>高学年 A 聴いたり調べたりしたことから新たな課題を設定し、解決に向けての情報収集ができる B 他者の考えの意図を感じながら聴き、自分の考えを深め、その変化を表現することができる D 相手や場に応じて適切な言動ができると同時に、今、なにをすべきかを周囲に提案できる</p>
<p>研究</p> <p>教科等 社会科・体育科</p> <p>主題・内容等 主体的に学び かかわり合う中で 確かな力を身につける授業をめざして ① 「意見をつなぐ」キーワードに、児童が発見した課題を追求し、対話的な学びの中で自分の考え深め合う学習者主体の学習展開 ② 自らの目標や方法を設定して取り組む個別適合型の体力づくり ③ 21世紀型”スキル&倫理観”の育成を確実にする教科等間のつながりの充実</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>主体的に学び かかわり合う中で 確かな力を身につける授業</p>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力セI評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力セI評価	達成評価	総合評価
2	設定した21世紀型”スキル&倫理観”を着実に育成する	★	継続	育成すべき”スキル&倫理観”を明確にした課題発見解決学習が展開されるようにする。	「意見をつなぐ」をキーワードに一斉研修、授業研究を通して研修を深め、学習者主体の授業に改善する。	「意見をつなぎ合い、自分の考えを深めている」児童質問紙 80%以上。	【肯定的回答82%】授業の中で子どもの「意見をつなぐ」展開になるよう焦点化して取り組んでいる。	3	3	「意見をつなぐ」取り組みを継続する。単元のゴールについて、子どもたちが決めた価値あるゴールになるよう見直す。				
4	心身ともに健康な体をつくる。		継続	新体力テストで県平均以上の種目を80%以上にする。	児童が自分自身の現状から目標や方法を決めて追求する体育授業等に改善し、体力向上を図る。	「体育や体力づくりでは自分の目標や方法を決め、取り組んでいる」児童質問紙80%以上。	【肯定的回答83%】朝体育や体力づくりの内容を縦割り班で決め、児童自らで運営するよう取り組んでいる。	3	3	朝体育などの具体的活動を子どもたちが楽しみながら自ら運営するように、教師は指示から見守りに切り替える。				
1	業務改善、業務削減を推進する。		新規	教職員が本来担当すべき業務に専念できる環境を整備し、ワークライフバランスを確立する	職員の働き方に対する意識を醸成するとともに、学校時程等の業務環境を見直す。	時間外勤務が月平均43時間以内の職員を75%以上にする。	【43時間以内95%】平均32.5時間になった。時程の見直し、行事の簡素化に取り組んだ。	4	4	時程、行事計画や業務の仕方について、前例に執われず、思い切った整理を着実にやっていく。				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。